



ユネスコスクール便り

№76

令和元年6月10日
大牟田市Iネットスクール
担当者通信

つながりを大切にし、
かかわりを深める児童生徒の育成

6月に入り、各学校では1学期のESDに関する実践が深まっている頃ではないかと思えます。

さて、各学校での特色ある実践はどのように発信されているでしょうか。通信や学校のMボードなどを用いたメディアでの発信もさることながら、新聞社やテレビメディアを通じた発信も非常に魅力的だと思います。子どもたちが生き生きと学び活動する様子を多くの人々に知っていただくことで、大牟田市のESDに対する関心が高まり、地域全体、大牟田市全体を巻き込んだ取り組みになっていくのではないのでしょうか。ホールシティアプローチの一端として、ぜひ様々な発信方法で子どもたちの活動する姿を発信していきましょう。

特色ある実践事例の紹介



教えて！ 大牟田のESD



Q:「SDGs」について
教えてください

持続可能な開発目標(SDGs)は、2030年を期限とする、国際社会全体で取り組む国際的な目標のことです。17の目標が掲げられています(この便りの最上部の17のマークがその目標を示しています)。「教育」はSDGsの目標4に位置付けられています。

「教育が全てのSDGsの基礎」と言われるように、教育は、SDGsで示された目標を達成するための根幹です。私たちは日々の教育活動を通して、持続可能な社会の担い手を育成しているのです。子どもたちが将来直面するであろう諸課題に対して、「持続可能な社会」を考えた働きかけができるように、まずは私たちが、17のゴールを意識して学習指導に当たっていくことが大切ではないのでしょうか。

伝統の食文化「有明海の手づね作り」を学ぶ 手鎌小学校

3年生の子どもたちは、手鎌校区の様子について調べる中で、海苔の生産と出会います。海苔作りは有明海で行われている伝統的な産業であり、海苔は、食文化です。子どもたちは海苔作りについて、地域で海苔作りに携わってある方と関わりながら話を聞いたり、実際に海苔漉き体験をしたりして調べます。その中で、伝統を受け継ぐ地域の方々の思いや願いについて理解し、全国の食卓へと届けられている有明海苔を生産している地域のよさや特色をとらえることができました。子どもたちは、学んだことを壁新聞にまとめ、自分たちの地域にある全国に誇れるおいしい海苔作りを大切に守っていきたいと発信することができました。



海苔づくり体験に取り組む子どもたち

まちづくりを担い社会の創り手となる生徒を育む 白光中学校

白光中学校版SDGsとして、3:すべての人に健康と福祉を、4:質の高い教育をみんなに、11:住み続けられるまちづくりを、17:パートナーシップで目標を達成しよう、以上四つを設定しています。特に、「白光タイム」では、1年生「福祉学習～共に生きるために～」、2年生「世界遺産学習～大牟田の宝のすばらしさを多くの人に伝えよう～」、3年生「生き方(進路)に係わる学習」を中心に体験学習を計画・実施し、自分で考え、行動できる生徒の育成を目指しています。また、平成24年4月に設立された「HAKKOクッキー社」(生徒が運営するボランティア組織)は、地域や大牟田市のイベント等でゆるキャラ「ハッキー」とともにクッキー(生徒がデザインを考案)を販売しています。その収益金は毎年、被災地に見舞い金として贈呈しています。



クッキー販売の様子